

## 平成 19 年度 中学校第 1 回入学考査問題 (社会)

(その 1)

問題 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

「地下深くに住んでいる大きなナマズがからだを動かすと、地震がおきる」。江戸時代の人びとはそう信じていました。安政 2 (1855) 年 10 月 2 日の午後 10 時ごろ、江戸の町を①直下型の大地震がおそいました。震源地は現在の②荒川の河口の近くで、地震の規模はマグニチュード 6.9 と推定されています。そのうえ、地震の直後に 37 か所で出火したため大災害になりました。被害は、死者が武士 5,000 人、町人 5,000 人で合計 1 万人前後、たおれたり、焼けた家は数万戸と推定されています。

この地震の直後から、地震でくずれたり、出火した場所を地図に示した瓦版(事件などを速報した江戸時代の「新聞」)がたくさん出まわり、被災した町なみや家のようす、避難生活のようすをえがいた多色刷りの浮世絵もたくさんつくられました。その中で、「鯰絵」というナマズをえがいたこっけいな浮世絵がつくられました。③「鯰絵」は 300 種類以上もつくられ、被災した人びと、中でも家賃をはらって長屋に暮らすような貧しい町人たちがあらそうように買い求めたのだそうです。このような被災した貧しい町人たちは、どのような思いで「鯰絵」を買ったのでしょうか。

では、代表的な「鯰絵」をいくつか紹介しましょう。(以下の「鯰絵」はすべて『鯰絵 震災と日本文化』による)

〈図 1〉



〈図 1〉は、鹿島大明神がナマズの頭に「要石」をのせて、ナマズの自由をうばっている「鯰絵」です。当時の人びとは、常陸国(現在の茨城県の一部)にある鹿島神宮の鹿島大明神が「要石」で地下のナマズをおさえて地震を防いでいると信じていました。しかし、古くから 10 月は「神無月」と言われ、日本国中の神様が出雲国(現在の島根県の一部)にある出雲大社に集まって話し合うため、他の国には神様がいなくなってしまうとされていました。鹿島大明神も出雲国に行っていたため、「要石」の働きが弱まり、地下のナマズが動き出して地震がおきてしまったというわけです。そこで、あわててかけもどった鹿島大明神がナマズにふたたび「要石」をのせたのです。絵の中で、ナマズは、「人にうらみはありませんが、最近ではドジョウが流行しているのがくやしくて動いてしまいました。これからは動きませんので、許してください」とあやまっています。

このような〈図 1〉を買った人びとは、「これで二度と大地震がおきることはないだろう」、「新たな気持ちで生活を立て直そう」と思ったのではないのでしょうか。

(その2)

《図2》



《図2》は、地震で被害を受けた人びとが、よってたかってナマズの親子をこらしめている「鯰絵」です。この絵では、親のナマズはヒゲを引っぱられた上に、たくさんの人からなぐられ、子どものナマズも押したおされています。

このような《図2》を買った人びとは、ナマズを地震をおこした「悪役」として、仕返しをすることでうっぶんを晴らそうと思ったのではないのでしょうか。しかし、この絵の中で、ナマズへの仕返しを止めようとしている<sup>だいく</sup>大工や瓦版屋もえがされています。なぜ、大工はナマズへの仕返しを止めようとしているのでしょうか。

《図3》



《図3》は、ナマズが金持ちの町人の背中を押して、<sup>こぼん</sup>小判や銀貨をはき出させ、それを大工などの職人たちがうばい合っている「鯰絵」です。絵の中で、金持ちの町人が「せっかく節約してお金をためたのに、家の建てかえでお金をはき出すことになって、ばかばかしい」と言うと、ナマズは「あなたはお金をためこんで、貧しい町人たちを困らせるから、こんな苦しい思いをするのですよ」と言い返しました。

ナマズの言い分は、「たとえば、金持ちの町人がもうけたお金でお菓子を買えば菓子屋にお金流れ、呉服を買えば呉服屋にお金流れます。さらに、菓子屋や呉服屋の主人や店員が<sup>とこ</sup>床屋や蕎麦屋に行けば、そこにもお金が流れていくことになります。そのため、金持ちの町人がお金をためこんで独り占めしてしまうと、多くの貧しい町人が苦しく、困った生活を送るほかない世の中になってしまう」ということなのでしょう。

このような《図3》のナマズは、金持ちの町人をこらしめて、多くの貧しい町人を救う「世直しナマズ」としてえがかれているとされています。《図3》を買った人びとは、⑤ナマズによる「世直し」を期待していたのではないのでしょうか。

(その3)

《図4》



《図4》は、ナマズが⑥あるアメリカ人と言いあらそって、力くらべをしたところ、行司が「ナマズの勝ち」と判定している「鯰絵」です。絵の中で、ナマズは「おまえが日本をバカにして強引にやって来たから、江戸の町がさわがしくなった。⑦役に立たない交易(外交と貿易)はいらない。さっさと立ち去れ」と言いました。アメリカ人は「おまえは去年も下田(現

在の静岡県にある町)で地震をおこして、われわれをおびやかそうとした。しかし、ここから逃げ出さないのがアメリカ人魂だ」と言い返しました。そこで、ナマズが「立ち去らないと、泥の中にうずめるぞ」とおどしたところ、アメリカ人も「鉄砲をうつぞ」と応じました。行司は、「両方とも静まれ。まあまあ、話を聞きなさい。ナマズが地震をおこしたので、古い建物の建てかえや修理がおこなわれた。そのため、江戸の貧しい町人たちの生活に役立った」と言って、ナマズに軍配をあげています。

このような《図4》を買った人びとは、地震をおこすナマズも、力づくで閉国させるアメリカ人も同じように困ったものだったことでしょうか。しかし、地震のほうが江戸の貧しい町人たちの生活を支えることもあったから、まだましなものだったのではないのでしょうか。

このように「鯰絵」は、ユーモアがふくまれた絵が多いのです。江戸の被災者はつらく、苦しい心をかかえていたことでしょうか。しかし、おそろしい地震がこっけいなナマズの姿でえがかれることで、こわさやつらさを笑い飛ばすことができたのかもしれません。ある歴史学者は、「鯰絵」は被災者の心に明るさや希望をとどけようとした「応援画」なのだと位置づけています。

問1. 下線部①について。日本でも1995年に阪神・淡路大震災、2004年に中越地震がおき、トルコや台湾でも1999年に大地震がおきました。それぞれの被災地には、国際連合をはじめとした国際機関からの緊急援助チームが派遣されました。また、海外の被災国に対しては、日本政府も特別な資金や物資の援助を行いました。

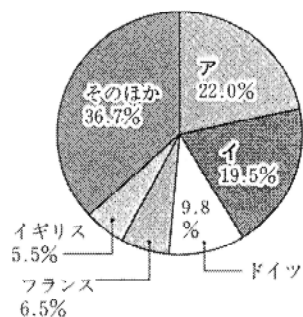
世界各国の国際連合への協力と日本政府の対外援助に関連して、

- (1) 《表1》のグラフで、アとイにあてはまる国名を下記の【語群】からそれぞれ一つ選び、数字で答えなさい。
- (2) 《表2》のグラフで、ウとエにあてはまる国名を下記の【語群】からそれぞれ一つ選び、数字で答えなさい。

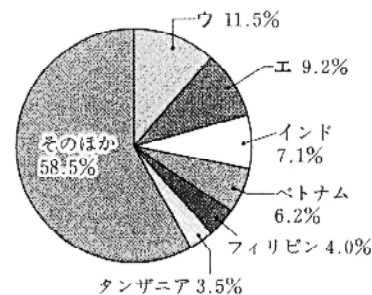
(その4)

《表1》各国による国際連合の分担金の割合 (2003年)

《表2》日本政府の各国への資金援助の割合 (2001年)



(国際連合資料より)



(外務省資料より)

【語群】 1. アメリカ      2. インドネシア      3. 韓国      4. 中国      5. 日本      6. ロシア

問2. 下線部②について。日本の多くの河川の上流には、雨水をためたり、水をきれいにしたり、洪水を防ぐ働きをする森林が広がっています。こうした森林を何とよんでいますか、答えなさい。

問3. 下線部③について。「鯰絵」を買った江戸の貧しい町人たちは、絵の中にある文章を読むこともできました。そうした能力を育てた、江戸の町人たちが子どものころに通った「学校」は何とよばれたのか、その「学校」の先生はどのような人びとだったのか、その「学校」の授業内容はどのようなものだったのか、この三つの点について60字以内で説明しなさい。

問4. 下線部④について。

- (1) 鳥根県の県庁所在地はどこですか、答えなさい。
- (2) 鳥根県ととなり合っているすべての県の名前を答えなさい。

問5. 下線部⑤について。《図3》でナマズ (がおこしたとされた地震) がどのように「世直し」に役だったのでしょうか。地震と「世直し」との関係を中心に、おもに《図3》の説明をふまえて、200字以内で説明しなさい。その際、必ず下記のことばを用い、そのことばの下に線を引くこと。

家や店の建てかえ      大工以外の貧しい町人たちの仕事      金持ちの町人と貧しい町人たちの格差

問6. 下線部⑥について。このアメリカ人はだれのことですか、名前を答えなさい。

問7. 下線部⑦について。実際に外国との交易が始まると、江戸の市民にとっては「役にもたない」どころか、「とても困った」ものになりました。それはどのようなことなのでしょう。輸出の影響を中心に90字以内で説明しなさい。その際、必ず下記のことばを用い、そのことばの下に線を引くこと。

横浜の品物の量      江戸の品物の値だん      打ちこわし

